

黄銅など、7月受注分から

7月から
メーカーの加工賃上げ転嫁

倍野区、社
氏)は、大正
市大正区、
0坪)のシ
設備(切斷
更新する。
00万円の
同社は1
公害処理用
銅生産を国
有田工場(
田郡有田川
2400坪
た。主要設
粉碎ライン
で月間能力
スト)、被覆
体機、プレ
基など。2
1ラインは
休止し、現
で月間4

29日に開議決定された2017年度版「ものづくり白書」に、ダイカストメーカー大手・アールスティの品質保証の取り組みが取り上げられた。国内製造業における品質保証体制の強化が急務とされる中、アールスティはトレーサビリティシステムの構築により、不良品の発生源をスピーディーに特定できる仕組みを実現。現「白書」は同社・東松山工場の取り組み事例を紹介している。

17年度版「ものづくり白書」

定できる仕組みを実現。現「白書」は同社・東松山工場の取り組み事例を紹介している。

アールスティの品質保証取り組み事例紹介

タと各工程の品質データを個別に確認し、不良品が発生した場合、2時間以内でその発生源を特定できる仕組みを確立した。

「アールスティ」は、品質管理部門と製造部門が密に連携することで、トレーサビリティを構築。製造工程で製品ごとにレーザーで二次元コードと個体識別番号を刻印。金型温度や加圧波形などの製造データと各工程の品質データを個別に確認し、不良品が発生した場合、2時間以内でその発生源を特定できる仕組みを確立した。

成でできることを確認するとともに、再生可能エネルギーによる水の電気分解で製造した水を原料とするアンモニアの合成試験を実施する予定。

常総会を開催。会員、関係者ら約15人が参加した。今期の全議案を満場一致で可決承認。任期満了に伴う役員改選では、高山会長、桑子義之（桑子産業社長）、保田一彦（保田産業社長）が国内で行き場を失くし、電線リサイクル市場も厳しい環境にさらされている。昨年に引き続き産官学が連携し、再資源化に関わるさまざまな補助金事業に積極的に取り組む必要がある」と今後の見通しを語った。

「意味を込めた「3D+ONE」を掲げている。白銅では2基の3Dプリンターを活用し、マルエーシング鋼やアルミ合金（ADC12）といった鋼種で造形加工を可能とするため、水素を輸送する際のキヤリアとしての活用が期待されている。日揮と共同で同鋼種を用いた実証試験装置によるアンモニア製造実証試験も本格的に開始した。

低温・低圧でアンモニア製造可能な触媒開発

産総研

は、従来法より低温・低圧でアンモニアを合成できるルテニウム触媒を開発したと発表した。再生可能エネルギーを利用して製造した水素からのアンモニア製造が可能となるため、水素を輸送する際のキヤリアとしての活用が期待されている。日揮と共同で同鋼種を用いた実証試験装置によるアンモニア製造実証試験も本格的に開始した。

毒によって高圧では性能が低下してしまうという課題を克服した。また、変動する再生可能エネルギー由来の水素供給に対応するため、運転条件が変化した場合にも安定してアンモニアが製造できる。



「国際電子回路産業展」三井金属が銅箔など出展

三井金属は、6月6～8日に東京ビッグサイトで開催されるJPCAショー2018「第48回国際電子回路産業展」に、キャリア付極薄銅箔「マイクロシン」などの製品を出展する。

（ロンドン金属取引所）は現地28日、スプリングバンクホリデーのため休場。25日時点の銅現物は6886ドル（前場、セツルメント価格）と堅調を維持しているものの、足元の銅価格は79万8千円（21銭）と1週間前より1円以上高に振れた。

原料問屋の木村金属工業

ヤーリング設備更新

0.1のナゲット銅などを生産している。関西での規模でナゲット銅などを手掛けている業者は限られており、同ラインでは銅線を粉砕した赤ナゲットだけでなく、バーネス線や家電線といった雑線まで粉砕が可能。このため白ナゲット（銅引銅線を粉砕したもの）や雑ナゲット（雑線を粉砕したもの）で銅引、真鍮、アルミの混入ありの生産が可能になる点がある。

増し雑ナゲットの需要が見込めるとなれば、休止している被覆線粉砕ラインを雑線専用ラインに再稼働させ、2ライン体制に戻すことも検討したい。有田は数年かけて設備更新などを進めていく（木村社長）。

行となれば有田工場の人員（現状15人）の拡充が不可欠で、慎重に考えたいという。

木村金属工業は事業拠点の本社と大正倉庫、有田工場、全従業員数は33人。銅スクラップ・電気銅などの月間扱量は約1500トで、その内95%が銅。三菱マテリアルや三菱電線工業、三菱伸銅など三菱グループ各社と密接。18年8月期売上高は前期比15%増の150億円を見込む。

インドネシアのアルミナ合併 昭和電工、全持分を譲渡

昭和電工は29日、インドネシアでアルミナや水酸化アルミニウムを製造する持分法適用会社インドネシア・ケミカル・アルミナ（ICA）の株式を合併先に譲渡すると発表した。現在昭和電工ではICAの株式20%を保有。8月末をめどにアンタム社に全持分を譲渡することを決めた。売却額は非常に少ない。

現在ICAの工場は操業を停止しているが、操業再開に当たり発生する費用について、昭和電工は2018年12月期は第2四半期末の中間配当を行わない予定だったが、業績予想を総合的に判断するなどとして1株当たり20円の配当を決めた。これを受けて年間配当は90円となる。

黄銅原料購入値

18円下げのキロ587円 日本伸銅

黄銅棒の大手メーカーである日本伸銅は29日、黄銅削粉購入価格を前回比マイナス18円のキロ587円に改定する、と発表した。黄銅削粉購入価格の

改定は、29日付で電気銅建値がトン2万5千円下、79万円になったこと、28日付で電気亜鉛建値がトン1万5千円下、37万6千円になったことを反映した。

購入条件は工場持ち込み渡し、手形120日ベス、油水分許容量は最大0.8%。

昭和電工は29日、配当予想を修正すると発表した。2018年12月期は第2四半期末の中間配当を行わない予定だったが、業績予想を総合的に判断するなどとして1株当たり20円の配当を決めた。これを受けて年間配当は90円となる。

0.05~0.4mmまで加工可能

滑川軽鋼株式会社

Just size Creator

〒163-0209 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル9F

TEL:03-6811-9011 http://www.namekawa.co.jp

人事異動

リケンCKJV

（6月25日付）

▽取締役兼工場長（継手工場長） 高倉英朗

▽取締役兼工場長（継手工場長） 高倉英朗

全周面取り

アルミ4面フライスのオプションで承ります

ISO 9001 認証取得